

第7回菊池市総合計画策定審議会 議事録

I. 概要

日時：2021年11月24日（水） 10：00～11：30

場所：菊池市市役所3階305大会議室

上野委員、古津委員、山本委員、城委員、泉委員、合志委員、坂田委員、
田中委員、岩根委員、工藤委員、加來委員、松永委員、最上委員、佐藤委員
山口委員、福田委員、中里委員

※欠席：緒方委員、増住委員、北村委員

菊池市役所企画振興課 後藤部長、中川課長、上野課長補佐、井島係長、高木参事
地総研 内藤（文責）

※以下敬称略

II. 会次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

（1）第3次総合計画基本構想 前期基本計画（案）について

4. 答申

（1）答申書手交

（2）答申説明

（3）委員からのご意見・ご感想

（4）謝辞

5. 閉会

Ⅲ. 議事詳細

発言者	内 容
事務局	1 開会 本日は委員 20 名中 17 名参加。条例の規定の通り過半数超となり本審議会は成立する。
会長	2 会長挨拶 今日が 7 回目の策定審議会となる。委員の皆様には、これまで様々な観点で議論いただいた。全ての意見を盛り込むのは困難だったが、できる限り計画に反映させることができたと感じている。本日は市長への答申を予定している。計画素案について皆様の承認を得た上で市長に答申書を手交する。その後、委員の皆様からの意見や感想をいただきたい。
会長	3 議事（１）第 3 次菊池市総合計画 基本構想 前期基本計画（案）について 本日が最後の審議会であり、これから計画案の確認を行った上で、その後、市長に答申書をお渡したい。前回の策定審議会で、委員の皆様から出た多くの意見をもとに、計画案の修正を行っている。事務局より最終案について説明をお願いしたい。
事務局	本日は審議の後に、答申を実施する。はじめに前回の議論を踏まえた修正箇所について計画案と審議会の意見等に対する回答一覧をもって内容を説明する。 まず、P1 の「ごあいさつ」と P5 の「1. 計画策定の趣旨」の内容に重複感があるというご意見について、P5 の「1. 計画策定の趣旨」を簡素化、修正を加えた。「ごあいさつ」については本日晒示していないが、これから市長と内容を協議の上、掲載する予定である。 P13 の質の高い農林水産物の中に水田ごぼうの文言を追加する。 個別施策では、「施策 1 関係人口の拡大」について施策の目的を平易な文章に変更したことに加え、関係人口に関する注釈を挿入する。成果指標の「がんばるふるさと菊池応援寄附金」という項目の名称がわかりづらいという意見に関しては「ふるさと納税」に表現を変更する。 「施策 7 子育て支援の充実」に係る成果指標の保育所待機児童数については、すべての保育を必要とする児童が入所するための体制整備と、各保育所の理解と協力を引き続き得ることで達成することが必要という視点から変更はしていない。 「施策 8 健康づくりと医療体制の充実」の成果指標に国や県の実績を掲載することについては資料編に掲載する方向で調整中。

	「施策 9 高齢者福祉の充実」については、通いの場の注釈を追記した。また、要介護認定率の目標値が低いという意見については、保健事業と介護予防事業を一体的に取り組むことで、認定率を現状値に留めるという視点から変更していない。 「施策 13 脱炭素・循環型社会の実現」について、リサイクル率の目標値が低いという意見があったが、近隣自治体の現状の数値を確認すると、合志市、菊陽町、大津町が 10～13%で近似値となっていることから、14.2%の目標は妥当と考えるため変更しない。 「施策 16 防災・消防体制の充実」について、受援計画の注釈を追記する。 「施策 19 道路・交通体系の整備」について、交通体系や道路の維持管理の意見があったが、計画には明記していない。しかし、担当部署としては重要なことと捉えているので随時、要望や意見をいただきたい。 「施策 24 歴史文化の保存と継承」であった文化財保存の拠点に関する質問については、新たな施設を建設するのではなく、既存の施設を活用し文化財の集約・保存を進め、市民が見学できるようにするというもの。また、学校教育の場での伝統芸能の伝承活動は、子どもたちに伝統芸能に触れてもらえるような講座開催を予定している。 「施策 27 開かれた市政の推進」について市民参画の促進の内容が簡素化されすぎて分かりづらいという意見があったため、表現を変更している。 「施策 28 効率的な行政運営」について RPA の注釈を追記した。また、マイナンバーカードの成果指標については県内でもマイナンバーの活用事例がないため、まずは交付枚数を伸ばすことを目標とし、同時進行でマイナンバーカードを活用した業務効率化を検討する。 最後に計画全般に共通することとして、1つ目に図表の文字が小さいという意見があったが、これから計画デザインの構成を行っていく中で、図表も新たに作成し直すので文字を大きく修正していく。2つ目に「人財」という表記についてだが、固有名詞以外は「財」を表記するように、全庁的に統一している。本計画でも「人財」に統一する。 以上が変更点となる。ご意見をお願いしたい。本日の意見で反映が必要とされるものがあった場合については、答申に間に合わせることができないので後日修正した計画案と差替える旨了承いただきたい。
会長	前回の策定審議会が出た意見に基づく修正箇所について説明があった。今の説明だけでなく、その他の箇所でも構わないので、委員の皆様から質問や意見があればお願いしたい。

委員	P12 の、「(2) 菊池市の魅力」の 1 行目に、「菊池一族の統治により九州の政治・文化の中心地として栄え、」とあるが正しくない。南北朝時代には九州の政治・文化の中心として栄えていたという表現が正しい。前々回の策定審議会で意見を出した時には変更するという回答をいただいたので修正対応をお願いしたい。また、国営公園化について鞠智城が出ているが、その他に国指定を目指す史跡菊之城跡を入れるとより本市のことがわかると思う。
事務局	今の意見については計画案に盛り込む。
会長	その他に意見がないようであれば本日の案で答申を実施する。これから計画が更に良くなることに期待しながら、現時点での計画案を審議会の成果として答申させてもらいたい。答申の後、パブリック・コメントで市民の意見徴収を行い、必要であれば修正が入るとされる。
事務局	4 答申 (1) 答申書手交 これより第 3 次総合計画の答申書手交を行う。上野会長から江頭市長に答申書を手交してもらいたい。
会長	菊池市総合計画策定審議会において 7 回に亘って審議を行った。その成果として答申書をお渡しする。
事務局	(2) 答申説明 次に、上野会長より答申内容について説明をお願いする。
会長	内容の詳細については後ほど確認していただきたい。議論の中で出た意見を簡単にお伝えする。まず菊池市の地域資源を最大限利活用し、市民・事業者・団体とともに地域づくりを推進していく体制を構築し、進めてもらいたい。 また、市民が主体となって地域づくりを進めていくための官民のコミュニケーションによる密な連携をさらにバージョンアップしてもらい、市民意見やニーズに対応した市政運営をしてもらいたい。これからは市民が主体となった地域課題の解決が求められるが、それをけん引する地域リーダーの育成が実現されていない。試行錯誤しながら進めてもらいたい。 SDGs が地球規模で達成しなければいけない目標とされているが、菊池市は SDGs 未来都市にも選定されている。実現できることから実施し、リーダーシップを発揮しながら実現してもらいたい。 急激な社会環境の変化が起こる中、これまでの考え方の延長では課題解決は難しいと思われる。変化にしなやかに対応していくことが自治体に求められている。菊池市ならではの観点で進めてもらいたい。

	最後に本計画に成果指標が入っているが、成果指標は計画が順調に進捗しているかを確認するための代理指標である。しかし成果指標として政策目標の本質をついていないものが混じっている。これらについては政策の実施にあたり、政策効果が上がるよう工夫して取り組んでもらいたい。
	(3) 委員からのご意見・ご感想 省略
事務局	(4) 謝辞 続いて、江頭市長より謝辞をお願いします。
市長	委員の皆様には、計画策定にあたり多くの時間をいただいた。心から感謝を伝えたい。今回一人ひとりから丁寧な意見や感想をいただいた。この場で全てに答えることはできないが、全体に関する感想を伝える。商業や観光、福祉、教育、子育て、食、環境など多岐にわたって真剣な討議をいただいたことが伝わってきた。今日いただいた話はすべて前向きに受け止めた。官民一体での推進や、官民の更なるコミュニケーションにより方向性を一致させること、また市民が市政を自分ごととして考えることが必要だと感じた。社会環境の変化のスピードが加速化しているが、こういう時こそ皆の知恵を集めて乗り切ることが必要。癒しの里のコンセプトとして自然を守り、活かし、穏やかな発展につなげるというものがある。これが実現できれば、イベントに頼らずとも誘客や移住につながる。このようなつながりを増やすことが安定や経済のエンジンにつながる。日本全体で人口が減少する中、菊池だけ人口を増やすのは難しい。関係人口やファンを増やすと経済効果につながる。人を引き付ける生活の場を作っていくことが市にとって一番大事で、一番の近道と感じる。コロナ禍という想定外の艱難辛苦（かんなんしんく）を迎えたが、どう捉えるかで見方は変わる。この機会をチャンスと捉え、活路を見出すことが必要。一人の知恵だけでなく、それぞれの得意分野を集合知として集めることで素晴らしいまちづくりができる。反省点もあったが、心強い援軍を得たという思いが強い。ここで確信を深めたのは合言葉を忘れないこと。3つの「つ」が合言葉。まず、つどうの「つ」。一人で悩むのではなく、知恵を皆で出し合うことで活路ができる。次につながるの「つ」。農業と観光、企業と個人などをつなぐことで思いもしない化学反応が起きる。最後につづけるの「つ」。これが一番難しい。忙しにかまけて意識が希薄化しがちになる。つづけるために若い力に意見を伝え続けることが必要。皆様から時間をかけて検討いただいた結

	果を聞くことで、重要なメッセージとして整理できた。答申を踏まえた上で、意見を反映したい。それぞれの持ち場で力添えをいただきながら一緒に進めていきたい。
事務局	5 閉会 本日はお忙しい中、ご参集いただきありがとうございました。皆様の意見を踏まえまちづくりを進めていきたい。 これをもって、第7回策定審議会を終了する。